

“まちのお茶の間”から地域共生の拠点“(仮)あてらぁの家”へ

特定非営利活動法人アテラーノ旭

1集いの場“まちのお茶の間”からの出発

私たちは人口減少と高齢化の進む高知市旭地区のまちをなんとか元気にしたいと、同じ思いの人たちが集まって出資し、空店舗を借りて「まちのお茶の間・アテラーノ旭」を開きました。誰もが気軽に集まって話ができる場所をつくりたいという思いからでした。運営を始めて「まちのお茶の間」に來れない人たちへも支援をしたいと考えている中、2009年に高知市の「あったかふれあいセンター事業」を受託し、「弁当の配食」、「力のおたすけ（力仕事の支援）」、「やさしさのおたすけ（暮らしの支援）」の事業を始めました。



図一旭地区とアテラーノ旭の位置



写真一まちのお茶の間の様子

この受託事業は2013年に打ち切りとなりましたが、経費はできるだけ切り詰めながらなんとか続けてきたことで、地域の人達に一定の支持を得ることができ、2015年に任意団体からNPO法人となりました。

その後こどもの貧困が叫ばれるようになり、2020年にアテラーノ旭で「こども食堂」への取り組みを始めました。その矢先新型コロナウイルスの蔓延により子ども食堂は弁当の配達になりました。

2新たに見えてきたまちの課題

コロナ禍は新たな問題も浮き彫りにしました。うつやDVなどの増加でアテラーノ旭にも相談が増えてきたため、「新型コロナウイルス対応緊急支援助成」を受けて半年間の限定ながら子ども食堂に來れない子やホームレスの方、DV被害者・うつ等の精神疾患を抱える人への食を通じた支援を行いました。

うつ等の精神疾患を抱えた人たちは一人ひとりそれぞれ独自の事情を抱えていること、統合失調症等の病気への理解がまだまだ得られていないために近隣とのトラブルが多くなってきていることや、子供に弁当を届けながらその親や家庭の課題も見えてきました。こうした課題は様々な原因が複雑にからみあっています。アテラーノ旭単独ではなく、行政と様々な団体、地域住民と連携する必要も見えてきました。

3高知市の新事業とその可能性

介護保険事業の改正により基準緩和事業を高知市が検討を進め、高知市は独自の事業として「通所型サービスB事業」を2021年10月より行うことになりました。これは「住民主体による自主的な通いの場づくり」をサービスの目的として、食事が提供できるNPO等の住民組織が運営するものです。高

知市は先行モデルとしてアテラーノ旭で運営できないかと、本年春頃に打診がありました。旭地区で高齢者の集まりを企画・運営している団体がいくつかあり、それらの団体が集まって「旭やるかい」を組織してイオン高知旭町支店で活動していますが、そこでは食事を提供できないのでアテラーノ旭といっしょに活動できないかという提案でした。

そして本年夏頃にアテラーノ旭の道路を挟んだ向かいの家が空き家となりました。場所が確保できれば高知市の「通所型サービス B 事業」を進めながら、新たな街の課題に対応した活動ができるのではないかと高知市の新事業と具体的な場所が見えたことで、アテラーノ旭の今後の可能性が見えてきたのです。

4地域共生拠点としての「あてらあの家」

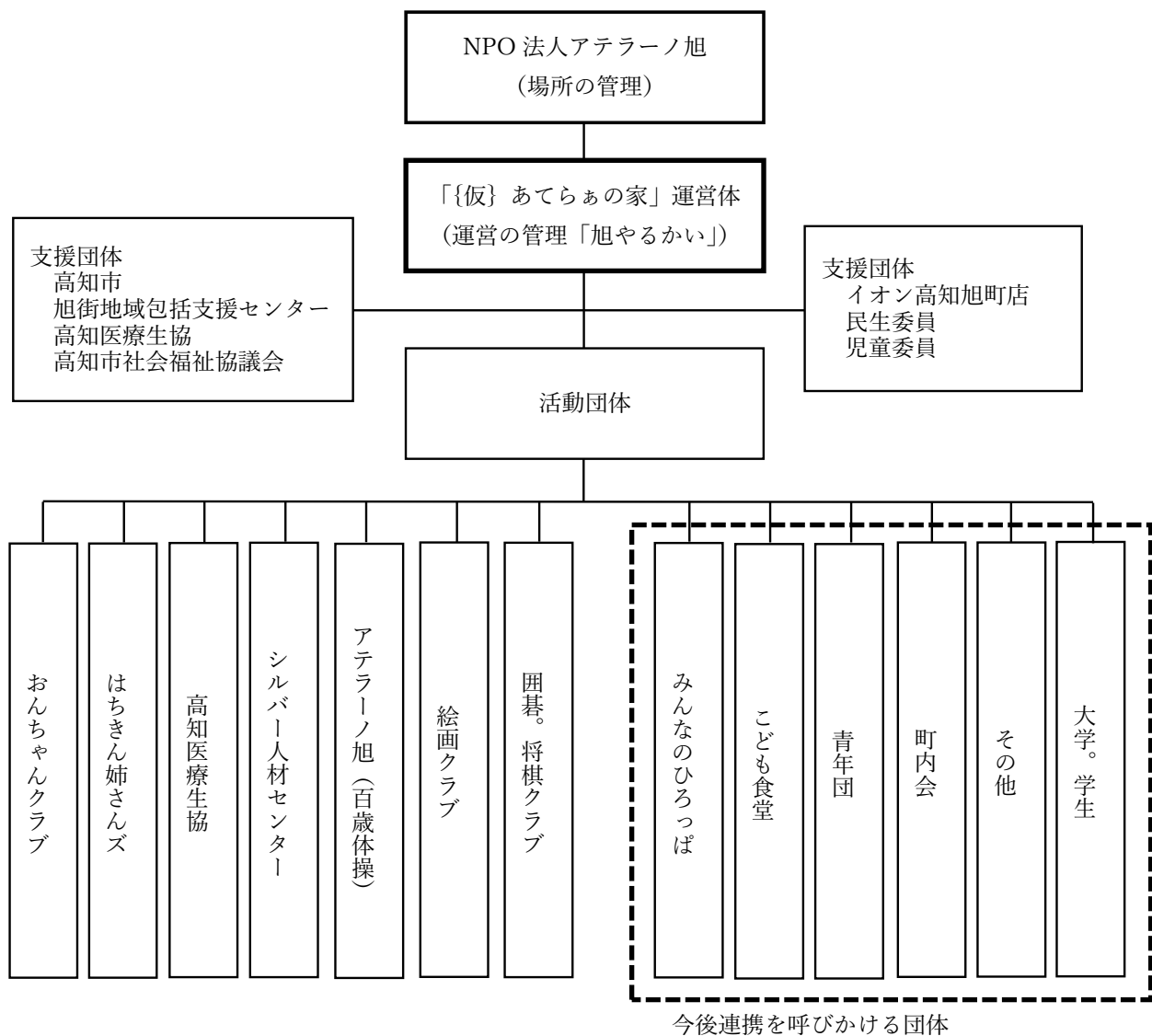
アテラーノ旭では理事会を数度にわたり開催して「通所型サービス B 事業」の可能性について検討しました。理事会では、様々な団体や地域の人達との連携が広がるだけでなく、多くの人達がアテラーノ旭に集まって来る可能性があり、地域共生を目指した事業が進むメリットが話し合われました。一方でコロナ禍によって「まちのお茶の間」を閉めざるを得なかったことも影響して経営が苦しくなっており、これ以上新しい場所を借りると経営が一層苦しくなるのではないかと懸念も示されました。

これらのことを踏まえて、新事業を実現するために次のような運営案をまとめて「旭やるかい」と話し合うことになりました。

- ・アテラーノ旭が新しい場所の借主となり、アテラーノ旭が場所の管理をする。
- ・新しい場所の運営は、この場所を利用する団体が集まって「運営組織」を立ちあげる。
- ・「運営組織」を構成する各団体から「出資金」をつのり、その出資金によって運営を行う。

「旭やるかい」へこの案を提出して検討していただいた結果、方針は理解していただき、出資金については各団体も財政事情が厳しいため、団体からだけではなく広く地域住民に募ることも確認されました。

ここに、高知市等の行政組織、NPO 法人アテラーノ旭を含めた「旭やるかい」に集まる民間の活動団体、企業等が連携した組織が立ち上がり、「(仮)あてらあの家」という場を確保することができました。単独の組織では経済的なリスクが大きく運営が難しいことを、多くの組織があつまり連携しあうことでリスクを回避することができたといえます。当面はアテラーノ旭でも主催している「いきいき百歳体操」や「おんちゃんクラブ」等の現在活動しているもの、「通所型サービス B 事業」に対応する活動を行いながら、連携先をこども食堂、地域の青年団、町内会、大学や学生へと広げ、地域共生の拠点「あてらあの家 (私たちの家)」となることを目指していきます。



図一地域共生の拠点「あてらあの家」の体制